資料３

これからの防災教育について

令和8年度第2回 川崎市教育改革推進会議　令和8年11月17日（火）

教育委員会事務局 健康教育課

1　現在の防災教育　（1）背景

平常時にできないことが、災害時にできるようにはなりません

登校中に大きな地震が起きたら、子どもたちはどう行動するでしょうか。

① 自然災害の激甚化・頻発化

地震に加え、風水害などの自然災害が激甚化・頻発化しており、本市でも令和元年東日本台風で浸水被害が生じました。

② 求められる学びの変化

知識の習得に加え、いざという時に自ら判断し、行動する力の育成が求められています。

③ 地域・個人の状況に応じた対応

想定される災害は地域によって、必要な対応は一人ひとりの状況によって異なります。避難訓練に加え、状況に応じて考える学習が必要です。

▼

だからこそ、日常の学びの中で、自ら考え、判断し、行動する力を育むことが大切です

1　現在の防災教育　（2）国の目標

自らの安全を確保する力を基本としつつ、他者の安全や安全・安心な社会づくりに主体的に関わる態度の育成が求められています

安全教育の目標（文部科学省「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」（平成31年3月）を基に、2つの柱に整理）

柱1　自分の命を守る力	
小学校	安全の状況を判断し、進んで安全な行動ができる
中学校	危険を予測し、自他の安全のために主体的に行動できる
高等学校	自他の安全状況を評価し、適切に意思決定して行動できる

例）登下校中など、災害が起こったときにいる場所や時間に応じて、自ら判断して身を守る行動をとる

柱2　他者や地域のために関わろうとする態度	
小学校	周りの人の安全にも配慮できる
中学校	地域の安全にも貢献できる
高等学校	地域社会の一員として、安全・安心な社会づくりに貢献できる

例）地域の特性や避難所の役割等を知り、災害時に自分にできることを考える

特別支援学校では、障害の状態や特性等に応じて、これらの力を育成します。

ここからは、この2つの柱に沿って、本市の現状と課題、今後の方向性をご説明します。

1　現在の防災教育　（3）キャリア在り方生き方教育とのつながり

防災教育で育む力は、本市が全ての学校で推進しているキャリア在り方生き方教育の視点とも重なります

本市では、一般の「キャリア教育」に、共生・協働の精神を培うという視点と、郷土を愛し、将来のふるさと川崎の担い手を育成する視点を加えた「キャリア在り方生き方教育」を、全ての教育活動を通じて推進しています。

キャリア在り方生き方教育の3つの視点	防災教育で育む力
自分をつくる	自ら考え、判断し、行動する
みんな一緒に生きている	周囲と協力し、命を大切にする
わたしたちのまち川崎	地域を大切にし、地域のために動く

1　現在の防災教育　（４）学校の取組

各学校では、避難訓練に加え、学校の実情に応じた防災教育を行っています

学習指導要領では、**防災に関する資質・能力は、特定の教科ではなく、教科等横断的な視点で、各学校の特色を生かして育成する**こととされています。

学校で実施していること

○避難訓練
地震や火災等を想定し、適切な避難行動をとる力を養うための訓練

○各教科等での学習
生活科、社会科、理科、保健体育科、家庭科、道徳等で、災害や安全を学ぶ
例：昨今の気象状況の変化等による自然災害の影響（理科）
　　災害に対する行政機関の対応（社会科）　など

学校ごとの取組（例）

○引き取り訓練（小学校）
非常事態が発生したという想定で、児童を迎えに来た保護者に引き渡す訓練

○集団下校訓練
自然災害等により、個人での下校が危険と判断した場合に、地域ごとに下校することを想定した訓練

○総合的な学習の時間における防災学習
地域の災害時の想定や備え、防災の取組等を調べ、自分たちにできることを考え、実践する等の探究的な学習を行っています。

○各区の危機管理担当と連携した防災学習
各区の危機管理担当との協力・連携により、防災出前講座等を行っています。

○地域防災スクール
消防局が市内中学校、高等学校の「特別活動」の授業等に出向き、訓練指導や講話を行い、自助・共助の精神を醸成するとともに地域の防災力を高めることを目的として実施しています。

このように、各学校では、全ての学校で行う訓練等を基本としながら、想定される災害（洪水・土砂災害・高潮等）も踏まえ、実情に応じた学習を工夫しています。

1　現在の防災教育　（５）教育委員会の取組

教育委員会では、研究推進校を指定して効果的な指導方法を実践し、その成果を研修会を通じて各学校に広げています

学校防災教育研究推進校
毎年7校を指定
実践的な指導方法を研究し、効果を検証

▶

学校防災担当者研修会
年3回
推進校の実践報告、講演、伝達講習

▶

各学校
よい実践を参考に、
自校の実情に合わせて工夫

令和7年度の学校防災教育研究推進校

学校名	研究概要
下平間小学校	自分や友達の命を守るために、自ら考える子の育成～発達段階に応じた一人ひとりが考える防災学習の実践～
橘小学校	災害から身を守り、共に命を守り抜く子どもの育成～防災意識を高め、災害被害を軽減するための橘小学校の取組～
生田小学校	災害を身近に感じ、一人一人の防災力を高める防災教育～知る！体験する！くり返す！～
南百合丘小学校	児童の防災意識を高めるために
富士見中学校	自助・共助・公助を意識し、みんなで防災力を身につけ、地域社会に貢献できる生徒の育成
菅生中学校	災害時に自ら考え、行動できる生徒の育成
田島支援学校桜校	備えて、積み重ねて、自分たちの命を守ろう～特別支援学校における児童生徒の実態に応じた防災教育の取組～

2　柱1　自分の命を守る力　（1）現状

柱1

自分の命を守る力について、研究推進校では、児童生徒が自ら考えて行動する防災学習に取り組んでいます

下平間小学校

「けが人がいたら、どうする？」

- 訓練の事前学習で、けが人が発生した場合を想定して学級ごとに考える時間を設定し、訓練では、自分たちでできることを実践しました。
- 学習を通じて、小学生でもできることがあると気づくとともに、周囲と協力しようとする姿が見られました。



研究に至った経緯

令和6年度児童アンケートでは、避難訓練で先生の指示や避難経路は理解している一方で、災害時の状況を自ら判断し行動することに課題が見られました。そこで、児童が主体的に考え様々な想定に対して、臨機応変に行動する力を育む防災学習に取り組みました。

菅生中学校

「自分のまちの危険を知る」

- 学区内の地区によって地形や危険箇所が異なることから、地域ごとの危険性を学び、災害時に自分で行動できる力の育成を目指しました。
- 地域ごとに分かれて図上訓練を実施し、それを踏まえて集団下校訓練を行うことで、下校しながら地域の危険箇所を確認し、防災意識の向上を図ることができました。



研究に至った経緯

学校敷地内及び学区内には土砂災害警戒区域が含まれているにもかかわらず、避難訓練等が形骸化していることに危機感を感じ、自分たちの住む地域の危険性を理解し、災害時に主体的に判断して避難行動をとる力を育む必要があると考え、本研究に取り組みました。

いずれの実践も、決められた手順に従うだけでなく、児童生徒が状況に応じて自ら判断し、行動する力を育むものです。

2　柱1　自分の命を守る力　（2）課題

想定と異なる状況でも、児童生徒一人ひとりが自ら判断し行動できる力を、全ての学校で育成していくことが課題となっています

①

知識習得が中心となり、実践力につながりにくい

災害の仕組みや避難方法を学んでも、決められた動きを覚えることにとどまり、想定外の場面での適切な判断・行動につながりにくい面があります。日常の授業で、自ら考える経験を重ねることが必要です。

②

地域や個人の実情に応じた学習が十分ではない

想定される災害は地域によって異なります。また、持病や必要な物品など、児童生徒一人ひとりの状況に応じた備えを考える学習が求められています。

③

児童生徒向けの共通の教材や手引き等が少ない

各学校が自校の実情に合わせて取り入れるための教材・手引き等が少なく、経験年数の少ない教員など、学習テーマの設定や授業準備に時間がかかる場合もあります。

2　柱1　自分の命を守る力　（3）今後の方向性

全ての学校で、児童生徒一人ひとりが自ら判断し行動できる力の育成に向けて、取組を進めていきます

目指す姿　**状況に応じて自ら考え、判断し、自分の命を守る行動ができる児童生徒**

考え方　平常時にできないことが、災害時にできるようにはならないため、日常の授業や訓練の中で、自ら考える経験を重ねます。

取組1　課題①②③

今日的課題に合わせた指定課題研究内容の設定

令和３年度に設定した研究内容については、実践の積み重ねがされてきたことから、昨今の災害等の状況や、「状況に応じて自ら判断し行動できる力の育成」「災害時に他者や地域のために関わろうとする態度の醸成」を目指した、実践的な内容に改め、研究成果の横展開を図ることで、本市の防災教育の更なる充実を図ります。

【現在の指定課題研究】
・マイタイムライン（防災行動計画）を活用した事前学習の実践
・課業時に避難者が避難してきたことを想定した避難訓練の実践
・応急処置の仕方や心肺蘇生法の実践

取組2　課題①③

防災ジュニアブック・ガイドマップの作成

「地震」「風水害」「自助・共助・公助」の３章からなる防災教材『かわさき防災ジュニアブック』や避難場所や津波や洪水等の想定区域を示した『（仮称）防災ガイドマップ』を中学1年生全員に配布します（3年間使用）。

作成に当たっては、本市に関わりのある事業者の協力のもと記事を作成しており、自助・共助・公助の連携に関する学びを通じて、私たちのまち川崎を知ることにもつなげていきたいと考えています。

論点1　**これらの取組に加え、想定と異なる状況でも自ら判断し、自分の命を守る力をさらに高めるために、どのような学びが考えられるでしょうか。**

御協議いただきたいこと（前半）

防災教育の現状・課題及び今後の方向性を踏まえ、柱1について御意見をいただきたいと考えています

論点1　前半のグループ協議

柱1

自ら判断し、自分の命を守る

児童生徒が、状況に応じて自ら判断し、自分の命を守る行動ができるようにするには、どのような学びが必要か。

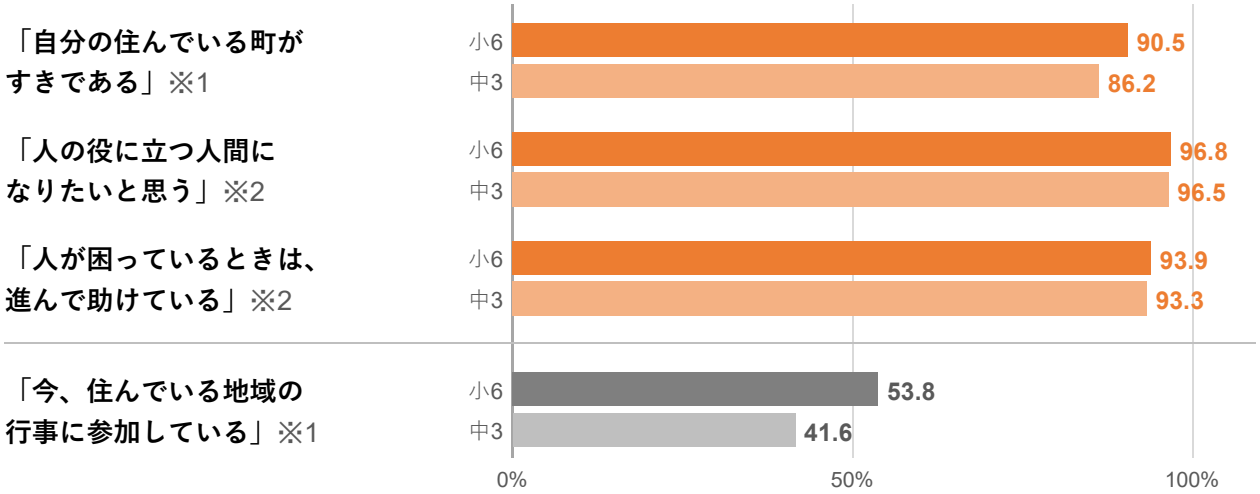
御意見をいただきたい事項

避難経路が使えないなど、想定と異なる状況でも、自分で危険を判断し、安全な行動を選べるようにするにはどうすればよいか。

3　柱2　他者や地域のために関わろうとする態度　（1）現状　児童生徒の意識

町が好き、人の役に立ちたいと思う児童生徒は9割前後いますが、地域の行事への参加は4～5割にとどまっています

小学6年生・中学3年生の肯定的な回答の割合（令和8年度）



町が好き・人の役に立ちたい・困っている人を助けている

9割前後

地域の行事に参加している

4～5割

※1 川崎市「令和8年度 川崎市学習状況調査 報告」　※2 文部科学省「令和8年度 全国学力・学習状況調査」の川崎市（公立）の結果
※1と※2は別の調査です（どちらも令和8年度の小学6年生・中学3年生の回答）

地域への好感や人の役に立ちたい気持ちは高く、困っている人を助けている児童生徒も多いものの、
地域の行事への参加には十分につながっていない状況がうかがえます。
こうした気持ちや身近な行動を、実際に地域に関わる行動へつなげていくことが求められています。

3　柱2　他者や地域のために関わろうとする態度　（1）現状　学校の取組

総合的な学習（探究）の時間で、生徒が地域の防災を探究し、地域に働きかけようとしています

総合的な学習の時間（中学校）

橘中学校　**1年「防災万博へようこそ！」**
地域の一員として、防災や減災について生徒がテーマごとに小グループをつくって探究を進め、地域への発信に向けて取り組んでいます。

麻生中学校　**1年「地域の防災力を高めよう」**
地震から生き抜くための方法（防災バッグ・防災グッズなど）や工夫を調べ、それを地域に伝える方法を探究しています。

学び方　問題場面を捉える　→　課題を設定する　→　課題解決に向けて情報を収集する　→　集めた情報を整理・分析する　→　まとめ・表現する・実践する　（繰り返し）

どちらの中学校も、生徒が地域の一員として、地域の防災のために自分たちにできることを探究しています。
※総合的な学習の時間で何を探究するかは、児童生徒の興味・関心等を踏まえて各学校が定めています。

総合的な探究の時間（高等学校）

幸高等学校　**生徒の班が、区役所から示された行政課題の中から「若年層の参画による地域防災力の強化」を選んで探究（令和7年度）**

地域の課題を調べる
地域の防災活動は高齢者が中心で、若い世代は防災を他人事と捉えがちなことが分かりました

▶

参加しやすい形を考える
防災だけでは人が集まらないため、防災以外の方向からきっかけを作る工夫を考えました

▶

地域で実践する
音楽と防災を組み合わせたイベントを開き、自作のボードゲームで楽しく学べる工夫をしました

▶

小学生へ広げる
小学生向けの防災学習や、区役所と行う出張授業を検討しました

生徒の振り返りより　「課題に対して自分事として捉えながら活動することができた」
「一人の若者としてこれから地域の防災に参加していきたいと思いました」

3　柱2　他者や地域のために関わろうとする態度　（1）現状　子ども会議の取組

子どもたち自身が地震への備えを話し合い、意見を市長に提出しました

川崎市子ども会議での子どもたちからの意見

川崎市子ども会議では、令和6年度に「子どもが考える地震のそなえ」をテーマに子ども同士で話し合いを重ね、
地域で防災に取り組む大人とも意見を交わして、令和7年3月に意見をまとめて市長に提出しました。

子どもたちが提出した意見

①　普段から防災情報に触れるきっかけがほしい

②　子どもが主体的に防災について考えるきっかけがほしい

③　家族で防災について考える機会がほしい

④　子どもが過ごしやすい避難所にしてほしい

【意見を踏まえた市の取組】

- 教育だよりかわさきに、防災に関する情報を掲載しました（全児童生徒、保護者など11万5千部配布）。
- 子どもたちがいざというときに地域防災の担い手として行動できるよう、学校の防災教育で活用する教材等の作成や、家庭などを通じた防災の意識づくりの取組を進めています。
- 子どもたちが考えた地震のそなえや避難所チェックリストを地域の防災組織と共有しました。
- PTAの防災イベントで、子どもたちが保護者の皆さんに「子どもが考える地震のそなえ」について説明したり、パネルディスカッションに参加して保護者と一緒に防災について話し合いました。

3　柱2　他者や地域のために関わろうとする態度　（1）現状　地域の取組

地域でも、PTAによる防災の取組や、子どもたちが地域のために行動する地域教育会議の活動があります

PTAの取組：「かわさき防災、なう。」

川崎市PTA連絡協議会が、市内小中学校のPTA役員・教職員を対象に、防災の「今」を共有し、PTAや家庭で「何が必要か」「自分たちに何ができるか」を考える催しを開きました（令和8年2月28日、川崎市教育文化会館）。

案内チラシで呼びかけた「防災3ステップ」

1　学校の防災倉庫をチェックする
2　自宅の防災グッズを見直す
3　自分の避難ルートを歩いてみる

地域教育会議の取組：宮前平中学校区

地域の祭りで販売
「宮崎台ふる里さくら祭り」で、小・中学生がポップコーンを販売しました

▶

売上金を届ける
地域教育会議が、売上金を能登町教育委員会へ届けました（令和7年6月）

▶

被災地の学校へ
能登町の小・中学校の置き傘の購入に充てられ、各校のホームページで紹介されました

また、小・中学生が地域を歩いて危険な場所を調べ、「地域安全マップ」を作る講座も開きました（令和7年7月）。

出典：宮前平中学校区地域教育会議「令和7年度活動報告」

こうした活動は、「自分にもできることがある」と実感する経験につながります。

3　柱2　他者や地域のために関わろうとする態度　（2）課題

柱2

地域と関わる機会を広げ、学校の学びと地域の取組を結び付け、地域への思いを行動につなげていくことが課題となっています

① **地域と関わる機会の偏り**

地域の行事に参加している中学3年生は41.6%にとどまっています（川崎市学習状況調査、令和8年度）。

② **学校の学習との関連付け**

防災は各教科等で学んでいますが、その学びを地域の防災の取組と結び付ける場面は、まだ少ないのが現状です。

③ **地域への思いを行動につなげる視点**

町が好きという気持ちを行動につなげるには、防災の学習で地域の危険を知るだけでなく、地域のよさや支え合う人々にも目を向け、「自分にもできることがある」と実感できる学びが必要です。

3　柱2　他者や地域のために関わろうとする態度　（3）今後の方向性

柱2

地域を知り、地域を大切に思う気持ちを土台に、地域の一員として自分にできることを考える学びの充実に向けて、取組を進めていきます

目指す姿　**地域を大切に思い、災害時に他者や地域のために自分にできることを考え、関わろうとする児童生徒**

考え方　地域の危険を知るとともに、地域のよさや支え合う人々にも目を向け、「この地域を守りたい」という思いと「自分にもできる」という実感を育みます。

取組1　課題②

かわさき探究2.0を活用した地域防災学習

かわさき探究2.0のテーマとして地域防災を選択することで、探究学習を通じて、児童生徒が地域の防災に関心をもつことや、地域の一員としての意識の向上を図ります。

取組2　課題②

地域の人々と連携する

町内会や、PTA、地域教育会議など、地域を支えてくれている大人たちと、地域の防災や災害時の取組等を一緒に考えたり、地域の行事や防災訓練など、地域の一員として活動する機会を活用し、児童生徒の地域への愛着を育みます。

取組3　課題②③

共助の気持ちを育てる

災害時に、近所同士で助け合い、困難を乗りこえるなど、自分たちのまちを、自分たちで守る意識を育てることや、避難所運営において、自分には何ができるかを考える機会を創出します。

論点2

これらの取組に加え、地域を大切に思う気持ちを、災害時に他者や地域のために主体的に関わろうとする態度へと育むために、どのような学びが考えられるでしょうか。

御協議いただきたいこと（後半）

防災教育の現状・課題及び今後の方向性を踏まえ、柱2について御意見をいただきたいと考えています

論点2　後半のグループ協議

柱2

地域への愛着を土台に、
災害時に地域のために関わろうとする態度を育む

防災教育を通じて、地域を大切に思い、災害時に他者や地域のために自分のできることを考え、主体的に関わろうとする態度を、どのように育むか。

御意見をいただきたい事項

地域を大切に思う気持ちを、災害時にも「自分も地域を支える一員として関わりたい」という思いにつなげるには、どうすればよいか。